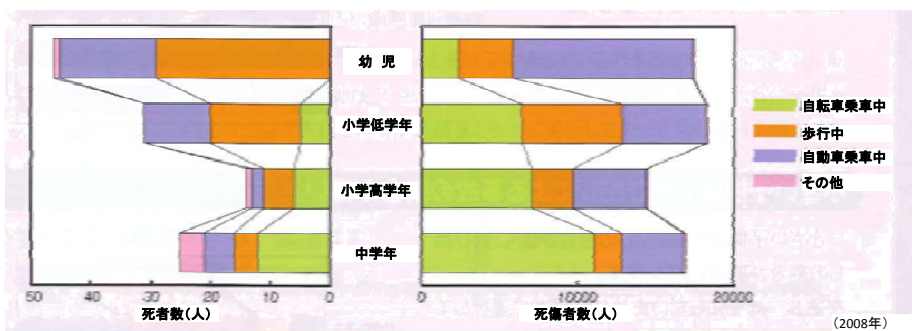


子供が関わる事故の実態

子供が関わる事故の状況①

学年別の状態別死者数・死傷者数

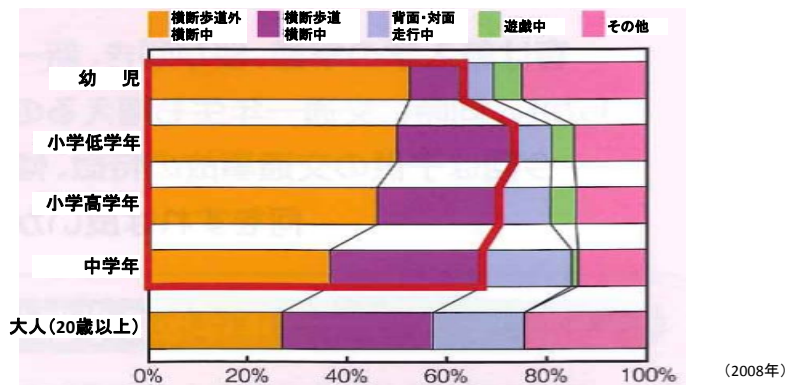


※ITRDAインフォメーションより

- 子供の死者数の半数以上は「歩行中」又は「自転車乗車中」が占め、死傷者数に占める割合も高い。
- 幼児については、「自動車乗車中」の死者数、死傷者数が多い。

子供が関わる事故の状況②

学年別の歩行中の状態別死傷者数の割合

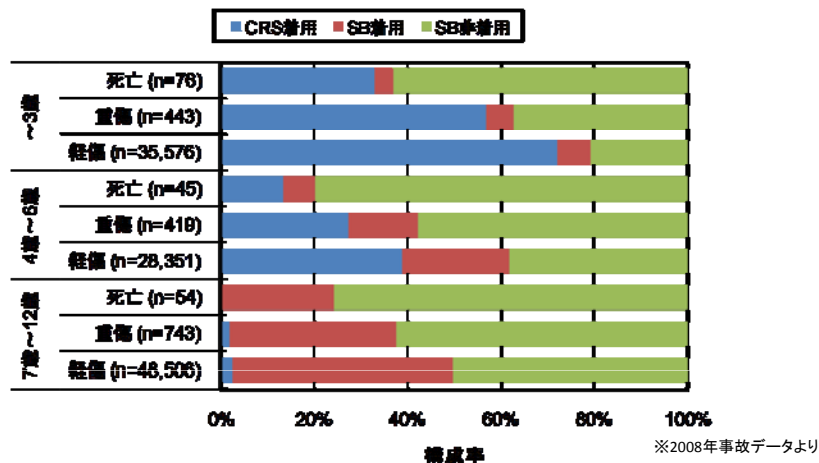


➤ 子供が関わる人对車両の事故においては、年齢が低くなるほど、横断歩道外を横断中の事故の割合が高い。

3

子供が関わる事故の状況③

乗員拘束装置使用状況別の乗車中の死傷者構成率

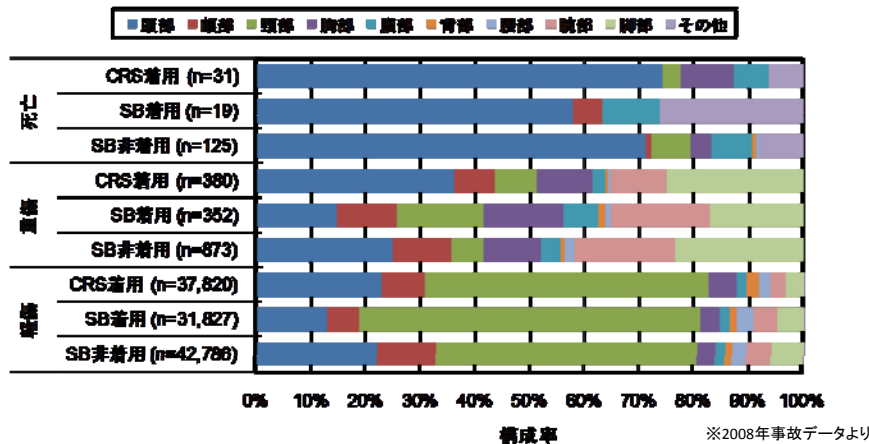


➤ 傷害程度が軽いほどチャイルドシート(CRS)やシートベルト(SB)といった乗員拘束装置の着用者の割合が高い。

4

子供が関わる事故の状況④

傷害部位別の乗車中の死傷者構成率

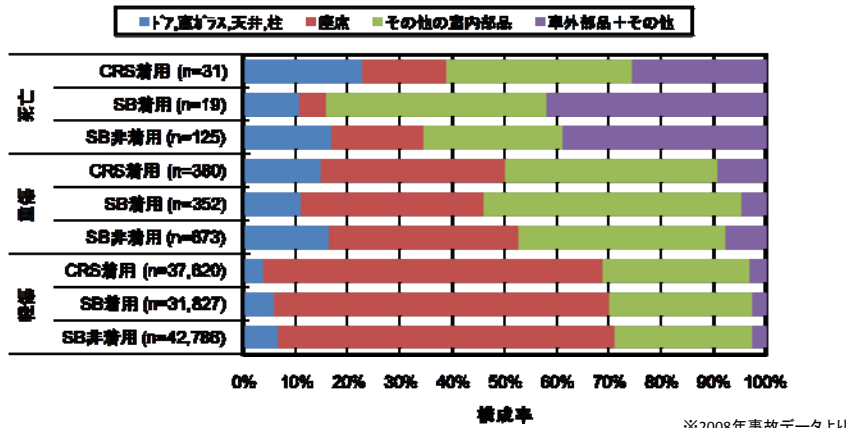


➤ 拘束装置の使用状況にかかわらず、死亡者では「頭部」の割合が高く、重傷者では「腕部」および「脚部」の割合が、軽傷者では「頸部」の割合が高くなっている。

5

子供が関わる事故の状況⑤

加害部位別の乗車中の死傷者構成率



➤ 全体的な傾向として、拘束装置の使用状況、傷害部位にかかわらず、死亡・重傷者では「その他の室内部品」が、死傷者では「座席」が加害部位となる割合が高い。

6